

月刊
JMITU

アノコトカ



散乱放射線被曝により慢性骨髄性白血病となった永井隆博士は、2ヶ月後に原子爆弾で被爆。被災者の救護活動を行い、この如己堂で平和の著作活動や研究活動を行った。



9月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2023年発行

No.465

23年秋闘 年末一時金 要求提出

私達JMITUセガ労働組

合は23年秋闘・年末一時金
要求をセガ及びセガ・ロジス
テイクスサービスへ、10月
4日(水)提出します。
要求内容は以下です。

1、アルバイト、パートタイ
マーの時給を2000円
以上にすること。

2、アルバイト、パートタイ
マー、派遣・請負社員を
本人の希望があれば正社
員にすること。

3、アルバイト、パートタイ
マーに退職金制度を設け
ること。

4、新人事制度を廃止し、導
入前の賃金体系に戻すこと。

5、昇格の基準を明確にし、
社員が納得できる昇格制
度にする事。

6、人事制度において評価給
がテーブルの上段に達し
た場合、昇格試験の機会
を与えること。

7、1日実働7時間、週5日
制、35時間労働とする
こと。

8、高齢者再雇用における有
期契約社員の給与を、定年
時の月額基準内賃金の8
0%で算定し支給すること。
希望するものには70歳ま
で再雇用すること。

9、リロクラブポイントを年
間5万円分にする事。

アルバイト、パートタイ
マーにもポイントを付与
すること。

10、事業所の移転・統廃合、
会社分割・合併・営業譲
渡など企業組織の変更、
子会社の設立、海外への
生産移転、工場・営業所
の進出、新業種の進出・
業種転換、資本の移動、
企業間提携、廃業、企業
倒産にかかわる私的・法
的手続きの申立・実行、
その他、重要な経営施策
の変更については、労働
組合と事前に協議し、同
意を得たうえで実行する
こと。

11、退職金を、勤続1年に
つき基準内賃金の2ヶ
月分とする事。

12、家族手当を妻3万円、

子(出生児から大学卒
業まで)2万円とする
こと。

13、業務外傷病有給休暇を、
一般従業員にも現行1
0日から最高60日
(休日除く)を与える
こと。診断書代の実費
を会社負担とすること。

14、社会保険料の負担割合
を労使3対7にするこ
と。

15、勤続3ヶ月以上の、本
人の結婚祝い金を現行
5万円から10万円に
引き上げること。
(セガのみ)

16、本人が結婚するときの

20、アルバイト、パートタ

年末一時金

JMTU秋闘統一要求

結婚休暇は、連続2週

イマーに社員同様、慶

セガ

「安心して働きやすい職場を求

間（休日含む）とし、

弔休暇を付与すること。

2023年年末一時金として、

める統一要求」

子供が結婚するときは

21、災害等による自宅待機

基本給の4ヵ月分を支給する

すべての労働者の均等待遇を実

3日（休日を含まず）

や早退・遅刻について、

こと。ただし査定を行わない

現する要求。

とすること。

正規、非正規にかかわ

こと。有期契約社員にも正社

賃金・一時金・手当、特別

17、忌引休暇を、喪主7日、

証すること。

員同様支給すること。及びパ

休暇、退職金等の労働条件に

正父母・配偶者・子供

らず賃金を100%保

業員にも、年末一時金を支給

において、性別、雇用形態、国

の場合7日、祖父母・

22、ガソリン価格が1リッ

すること。

均等待遇を実現すること。

父母の場合5日、伯

トルあたり160円を

2023年年末一時金として、

労働者の権利と雇用を守る要

(叔)父・伯(叔)母・

超えたら1キロ4輪車

賞与資格別基準額を2万円底

求。労働者の雇用を守るとい

日にすること。

36円2輪車18円に

上げし、係数4.0を支給す

う責任を明確にすること。

18、弁当代補助を1ヵ月1

支給すること。

いこと。有期契約社員にも正

本人の希望にもとづき、労働

万円支給すること。

(SLSのみ)

社員同様支給すること。及び

者の正社員化を促進すること。

23、スポット業務等で外部

パートタイマー、アルバイト

職務給（ジョブ型人事制度）

19、家賃補助5万円を支給

倉庫にて作業した際、

従業員にも、年末一時金を支

などに、査定、成果主義を持

すること。

外勤手当を支給するこ

給すること。

ち込まないこと。

これら会社からの回答日は
10月18日(水)予定です。

掌編小説

ケヤキの木

仙洞田一彦

なんとかいう会社が、会社の前の街路樹を除草剤で枯れさせてしまったという事件が起きた。ちょうど時期を同じくして、私の住む公営アパートでも似たような事件が起きた。

枯れた木はアパートと公園の境目に立つケヤキで、高さ十メートルはあると思われる大きな木で、境界石を挟んで公園側に立っている。どちらも公有地だが、管轄が違う。

このケヤキが真夏に突然枯葉になり、葉が落ちて裸になってしまった。日々の生活に追われ、公園の木など目に入らないが、今年の夏はちよっ

と目を引いた。例の事件が起きたからだ。

アパートは五階建ての一棟きりで、一つの階十室十所帯。建物の周りに植え込みがあり、大小さまざまな樹木が植えられている。別棟に集会室と保育園のある建物がある。その建物とは金網の柵で仕切られて公園があり、反対側にはマンションがいくつか並んでいる。わずか五十所帯のアパートでも、五十年近く経つといろいろある。

五十年間、一月と八月を除いた月の、第二日曜日朝の一时间、全所帯から人が出て、建物の周りの植え込みの草刈り、草むしりや掃除をしてきた。アパートの敷地内には、表通りとつながっている道路があり、道路にそって植え込

みがあり、背丈の低い樹木があつたり、草花が植えられていた。横長のアパートの前と

後ろにも植え込みがあつた。春から夏までの間の掃除の日は、樹木の消毒もした。秋から冬は落ち葉を掃き集めた。

住んでいる人たちも、初めからいる人だつて、入った時は二十代でも、もう七十代だ。亡くなった人もいる。家を建てたと出て来た人もいるし、一人で生活できなくなつて、子どもに引き取られていった人もいる。子どもといたつて、入居当時小学生でも、今はもういい年をした大人だ。

国籍は日本かも知れないが、外国人も増えた。空き室には、若い人が入ってくるから、まったく高齢化する一方でもない。小学生の子を持つ人も入

ってくる。

昔は掃除の日、五十人近くが集まつて、にぎやかだつた。第二日曜日、掃除の日を忘れて家にいた。今日は外がいやににぎやかだ。笑い声が聞こえる、話し声が聞こえる。外をのぞくと掃除の日だつた。そんなこともあつた。

今は静かなものだ。出て来る人は三分の二くらいになつてしまった。にぎやかな時を知る者にとっては寂しい。昔を懐かしむ老人の愚痴か。違う。みんながバラバラにされて、元気をなくしているように見える。

住民に歴史があるように、植え込みにも歴史がある。勝手に小さい区画を作つて、草花を植えたりする人もいる。中には車が止められるように、

木を抜いてしまったりする人もいた。本当は共有部分だから、できるのは雑草の草むしりくらいで、勝手は出来ないはずなんだけれど、我慢できる許容範囲だったのか問題にならなかった。植え込みに車を止めていた人も、いつしか

いなくなってしまう。特に親しくしている人でない限り、亡くなったのか、引越していなくなっただのかわからない。

ああ、何時もある車がない。そう思う日が続いて、あの人はどうなったんだろうと気付くくらいである。

去年、植え込みに防草シートが張られた。ゴム製か、ビニール製かわからないが、黒いシートが植え込みに張られた。字の通り草が生えるのを防ぐものだ。まず草を根から

掘り出し、そこにシートを張るのだ。

アパートに自治会があり、役員は一年ごとに交代する。一号室が今年度なら、二号室が次年度と、順番に役員をしていく。防草シートは去年の役員が決めてやったことだ。

任期が終わり、シートは一部張り残している。今年の役員は、シート張りの結果、様子を見ようということ、張り残したままになっている。

名も知れない小さな花が咲いていたり、何処から来たのか問いたくなるような、見栄えの立派な花が咲いていたりする。丈の高い草、短い草、様々。草ぼうぼうをよいことに、犬に糞をさせたり、ごみを捨てたりする人もいるにはいる。

だが一面黒い防草シートでおおわれてしまうと、思考の余地がないような、閉ざされた感じになってしまう。

「草刈りするところが少なくなっているわ」

「全部、張った方がいいわね」掃除の日、草刈りをしやがんでやっていたために痛くなった腰をさすりながら、耳が遠くなったのか、大声で会話している。

その会話を浮かぬ顔して聞いている人もいる。

どんな事情があるのか、掃除の日に出てこない人もいる。その人たちは、この風景、どう思っているのだろうか。

夏、ケヤキが葉を落した。異常な暑さのせいではない。五メートルくらい離れたところにあるケヤキは、葉を落し

ていない。ひそひそ話をつないでゆくと、防草の効果を高めるために防草シートを張る前に除草剤を撒いたらしい。

境界石は土をちよつと掘って置いた位だから、土中に入った除草剤が、ケヤキの木の根に影響しないはずはないだろう。除草剤が効いたんだ。

ひと月ほど経って、防草シート風景を眺めて、雑草という名の草はない。草にはそれぞれ名前がある——とか、な

んとか。聞きかじりの言葉を言ってみる。にわか草の味方になったわけではないが。今度は、ケヤキを見上げると、葉を落した、あちこちの枝の先、緑色が見えた。葉のようだ。よみがえったのか。目を凝らして、もう一度見上げて見た。